

法人（事業所）理念	「たいじょうぶ！やってみよう！！」という合言葉で、いろいろなことにチャレンジし、自己肯定感を高める事が出来る			営業時間	9時30分から17時		
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> 集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） 他者のかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 音楽や体操、絵本などの遊びを通して情操を豊かにします。 「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様に寄り添います。 			送迎実施の有無	あり	(なし)	
	ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容				
健康・生活	<p>(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得</p> <p>(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異常に気付けるよう、きめ細かな観察を行う。 (b) 健康の増進 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食をむ力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行なう。さらに、病気の予防や安全への配慮を行なう。 (c) リハビリテーションの実施 日々の社会生活をめざめよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行なう。 (d) 基本的生活スキルの獲得 身の回りの清掃、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 (e) 横断的支援 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p>			<p>来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。困惑がある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の日課に慣れて、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行ないます。）</p> <p>【共通】 ・水筒や弁当、筆箱やプリント類をロッカーや所定の場所に入れるだけでなく、使用後に元の場所に戻すよう声掛けを行う。 ・ランドセルの中を確認し、プリント類が整理整頓されていない場合は一緒に連絡袋に片づけることを習慣化する。</p>			
運動・感覚	<p>(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用</p> <p>(a) 姿勢と運動・動作の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘離や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 保有する感覚の総合的な活用 自走での移動行動の向上 歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行なう。 (d) 保有する感覚の活用 保有する触覚、聽覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の補助及び介行手段の活用 保有する感覚器官を利用して状況を把握しやすくなるよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行なう。</p>			<p>体操などを通じて、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。サークットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通じて、筋力・持久力・柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行ないます。</p> <p>【共通】 ・バランスストーンやトランボリン、バランスボールなどを使ってバランス感覚や体幹を鍛える。 ・姿勢保持が課題の児童には、足元にバランスラップを用いて刺激を与えて姿勢保持に繋げたり、ポディイメージが課題の児童にはシールを衣服に貼つつけられた箇所を探したり、シールを剥がなどの活動を行なう。 ・集団療育では制作を通じた微細運動、しつこ取りやボール投げを通じた粗大運動に取り組んでいる。</p>			
本人支援	<p>(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</p> <p>(a) 認知の発達と行動の習得 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行なう。 (b) 知識から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛けりによる概念の形成 物語、形・属性、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛けりとして活用できるよう支援する。 (d) 教数、大小、色々の習得 数量、形・大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行なう。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特徴を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行なう。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行なう。</p>			<p>買い物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を見るゲームを使い、楽しみながら空間・時間・数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行ないます。</p> <p>【共通】 ・感情のコントロールができるように順番や交換、「貸して」と言葉で伝えるなどの手立てを練習する。 ・一対一で練習することで、「貸して」と伝えたら必ず貸してもらえる環境や少し待てば順番が回ってくる環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせる。先の見通しを立てて順番を待つのスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。</p>			
言語 コミュニケーション	<p>(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用</p> <p>(a) 言語の形成と活用 具体的な物語や体験談・言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行なう。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉と文書の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。 (c) 人ととの相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配された場面における人ととの相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行なう。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上への支援 読み書き能力の向上への支援 発達障害のお子さまほど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行なう。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文書・記号・絵カード・機器等のコミュニケーション手段を通じて選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。</p>			<p>お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図理解し応答しながら、遊びややりとりを通して人への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ってコミュニケーションを取る言葉を支援し、実際にものを見たり触れたりしながらことばの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通して楽しくことばを学ぶ環境を提供し、日常会話や活動で新しいことはや概念を学ぶ機会を設けます。また、「貸して」「いつしょに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。</p> <p>【児童発達支援】 ・本院の興味、関心のある好きな活動やおもちゃを用いて発声しやすくなる環境を整え、職員がモデルを示すことで発語を促す。 ・集団活動を通して他者に対して自身の要求を伝えることが出来るよう、簡単なハンドサインや「貸して」「ちょっといい」「いいやで」と言葉を表すする環境を設ける。</p>			
人間関係 社会性	<p>(a) 他の人の関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加</p> <p>(a) 他の人の関わり（人間関係）の形成 人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 模倣行動の支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 仲間づくりと集団遊びへの支援 感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから協同遊びへの支援 周囲に子どもがいるも関わらないある一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊び協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 大人を介して自分がいること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。</p>			<p>事前に視覚的な手掛けりを使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるよう支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通じて、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるよう、職員がモデルを示します。</p> <p>グループの協力やコミュニケーションを促す活動を通じて、他者との関わりや協力的重要性を学び、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わらなければなりぬ遊びに興味を持たせ、人と人との交流を楽しめるようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通じて、社会性を育む機会を提供し、職員が遊びに参加しながら行動によってはモデルを示します。</p> <p>【児童発達支援】 ・職員や他児との挨拶やハイタッチを行うことにより、視線を合わせて聞く姿勢をもつ。 ・また集団活動を行う上で、職員や他児の候補をして他者に興味や関わりを持ち、人間関係の地盤を構築する。</p>			
家族支援	<p>・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時（お迎え時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行ないます。</p>			移行支援	<p>・必要に応じて学校（園）に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他事業所や相談支援に対し、訪問・電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行ないます。 ・学校（保育園・幼稚園）への送迎時、先生と学校（園）での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行ないます。</p>		
地域支援・地域連携	<p>・関係機関で役割分担し、情報共有を行います。 ・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報収集に基く、具体的な場面での関わり方や、困りごとにに関しての提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネート中の核を担つ事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行ないます。</p>			職員の質の向上	<p>プロッサムグループ本部にて下記研修実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・専門知識研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束矯正化研修 ・感染症対策研修 <p>その他 児発管ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施</p>		
主な行事等	<p>・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動</p>						